

4-⑱ 教育力向上の取り組みの概要

令和4年度は、教務委員会とFD委員会が連携しながらのルーブリック研修、学生の現状把握と指導方法に関する研修、学生FD委員の任命や意見交換会、新任教員のための授業ガイドの改定など、その全ては3つのポリシー（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）の推進のために実施された。まず、ルーブリックに関する研修では、次年度から導入予定の演習科目におけるルーブリック作成に向けて、現行のルーブリックをもとに課題点や不明点など教員間で多様な意見交換ができた。また、要支援学生など、学生が抱える心身の問題に関する研修も行い、学生相談室に寄せられる悩みを中心にそれに対する指導方法を模索するという形での研修会も実施できた。その他、学生FDとの意見交換会では、リモート授業だけでなく、ポスト・コロナを見据えて、今後の授業で学生が主体的になる為の問題点について学生・教員とともに議論を行った。これら研修会および学生FDとの意見交換会に関しては報告書を作成し、全学で共有する予定である。

他大学との連携では、昨年同様、姉妹校である京都芸術大学との合同研修ということで、ルーブリックの理論と実践に関する研修会他に、FD委員による意見交換会も実施し、シラバスや教授法などさまざまな意見交換をする場を設けることができた。

今後はルーブリック導入後の検証や点検を目的として、講義科目、演習科目で運用されているルーブリックの確認・修正を行うための研修会も実施していく。また、コロナ禍におけるリモート授業により、学生FD委員との意見交換会では「リモート授業においてもっとコミュニケーション能力を伸ばしたい」という意見が多く出た。学生からの意見を真摯に受け止め、高度な知識と技能を得る授業構築だけでなく、コロナ禍によって確立されたオンライン授業のあり方に関しても、教育力向上の重要な取り組みとして実行していく。

区分	機能
第1回 学内研修会	「要支援学生への支援と教育指導のポイントについて」／令和4年7月20日(水)、教職員86名 オンラインにて実施し、12グループに分かれて「①合理的配慮など支援体制の理解と共有」、「②各学科における支援事例の現状・指導上の課題の共有」についてワークを行った。教育的配慮の対応については、各学科・各教員に任せ共有できていない点もあったが、研修を通して、教育的配慮の必要な学生に対してどのような対応を行っているかを共有する参加者からも多くの質問が出され、有意義な会であったとの感想が多数あった。
第2回 学内研修会	「現行ルーブリックの点検と今後のルーブリック作成について」／令和4年11月9日(水)、教職員66名 次年度からの専門教育演習科目ルーブリックの設置に向けて、現行のルーブリックの事例をもとに、各学科・コース毎に記述内容の点検を行い、その課題点や不明点などについて事前協議したものを報告しあった。研修を通して、演習科目の項目や水準等の考え方を整理するとともに、今後のルーブリック作成に向けた理解の共有、平準化促進を図る機会となった。
第3回 学内研修会	「ルーブリックの理論と実践について」／令和4年1月12日(木)、教職員15名 京都芸術大学との共同FD事業として実施。京都芸術大学FD委員会が行う「ルーブリックの理論と実践」の研修を通じて、ルーブリックへの総合的な理解と芸術大学として抱える同様の課題点や策定へのヒントや工夫などを共有しながら、本学におけるルーブリック運用の基盤に関してアップデートを図ることができた。

<p>学生FD意見交換会</p>	<p>「学生FD委員との意見交換」／後期 令和3年12月14日、教員15名、学生13名 学内各学科から学生FD委員を選出し「意欲の高まる授業」、「リモート授業への所感・要望」、「ルーブリックの理解」、「授業の悩み」を主題として意見交換を行った。リモート授業も多くある中で、教員からのフィードバックは科目によってさまざまだが、学生は的確で意欲のわくものを求めていることやリモート授業であってもチャットなどの活用で対面より効果的なモチベーションを保つことができること、ルーブリックは明確な提示と説明が必要であることなど、学生委員たちから忌憚のない貴重な意見を収集することができた。ほとんどの教員は、自身が担当している講義以外の内容や形態の情報を持っておらず、シラバスだけの情報では分からない問題点が浮き彫りになった。</p>
<p>授業改善アンケート</p>	<p>令和4年度「授業改善アンケート」を実施 前期・後期それぞれに、開講した全科目について、受講学生による授業運営に関するアンケートを実施し、学内共有、担当教員へのフィードバック等授業改善と教育力向上にむけたFD活動への展開などに活用した。</p>
<p>学修成果アンケート</p>	<p>令和4年2月「学修成果アンケート」を実施 本学生の学習への意欲、学生としての意識、予習・復習状況等を把握し、教育内容や学習環境の改善にむけアンケートを実施した。 調査は、本学生専用の学内学修WEBサイトの回答システムを活用し、全学生の95.2%から回答を得て、改善活動に活かしている。</p>